




# 瀬戸会館

〒792-0821 新居浜市瀬戸町7-30  
Tel : 0897-41-5859 (Fax 兼用)  
E-mail : seto@city.niihama.ehime.jp




## 紙バンド教室

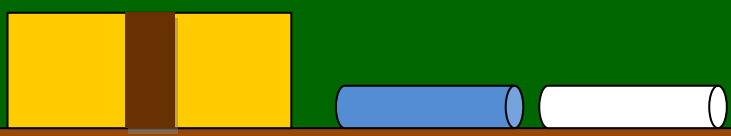
紙バンド手芸とは、クラフト紙やカラー紙で作られた紙糸を12本並べて作られている紙バンドで、様々なものを手作りする手芸のことです。カゴやバッグ、小物作りが人気です。この紙バンド手芸は、気軽に始められ、作り手さんの好みで仕上げるすることができます。また、紙とは思えない風合いと強さもあります。ベテランの方から新人さんまで和気あいあいと賑やかに、たまに真剣に作品作りに励んでいます。



△月○日(●曜日) 日直 高津 浦江

## 11月の行事予定

- ★ゆめじゅく編集委員会  
11月6日(金)13時30分～
- ★移動図書館青い鳥号  
11月11日(水)・25日(水)  
14時～14時40分
- ★「人権のつどい日」  
11月11日(水)19時30分～20時30分  
「あなたに伝えたいこと」DVD視聴とピアノの調べ  
インターネット時代における同和問題
- ★回転木馬(瀬戸児童館)  
11月17日(火)10時30分～11時30分
- ★人権・同和教育関係行事  
11月10日(火)  
平成27年度愛媛県人権・同和教育研究大会  
11月21日(土)～22日(日)  
全国人権・同和教育研究大会(長野県)



## 年末大掃除のお願い

瀬戸会館の大掃除を実施いたします。大掃除終了後みんなで軽い昼食を楽しみたいと計画しています。作業・昼食を通じて、サークルの皆さんの触れ合いも深まればと思っています。皆様のご参加・ご協力をお願いします。


日時：12月13日(日)10:00～12:00 瀬戸会館にて

## 資源ごみ回収のお願い

瀬戸会館活動連絡協議会(ゆめじゅく会)では、資源ごみの回収を行っています。回収品目は、新聞紙・段ボール・雑誌類・古布類・アルミ缶(スチール缶は回収していません)・牛乳パックです。このような資源ごみがありましたら、いつでも結構です。瀬戸会館まで持ってきていただければと思います。回収場所は、自転車置き場の一角に設けております。収益は「ゆめじゅく会」の活動に役立てます。皆様のご協力をお願いします。

### 回収できる物


- 新聞紙
- 段ボール
- 雑誌類
- 古布類
- アルミ缶



## 楽しかった新居浜太鼓祭り!!


### 瀬戸・寿子ども太鼓台が元気よく出陣

16日17日の両日、瀬戸・寿子ども太鼓台の運行が行われました。16日は昼からの運行でしたが、17日は早朝から瀬戸会館の駐車場に子どもたちの元気な姿がいっぱい。出発前に、太鼓台を中心にニコリ笑って、記念撮影。元気な掛け声とともに、張り切って出発。絶好の祭り日和に恵まれた3日間、今年の新居浜祭りは終わりましたが、暑さの中、汗と掛け声で子どもたちの絆も深まったのではないのでしょうか。



## ちょっと考えてみませんか

毎年、瀬戸会館ご利用のサークルの皆さんにお願いして、人権について考える時間を頂いています。今年は、「日常から考える10のヒント」というDVDを見て、日常生活を楽しむために、どんなことが大切かを一緒に考えたいと思います。サークル活動の始めか終わりに、30分程度の時間を頂ければ幸いです。日時等、今後相談させてください。






## 「こころ・はくくむ・はじまる~じんけんをまなぶ」

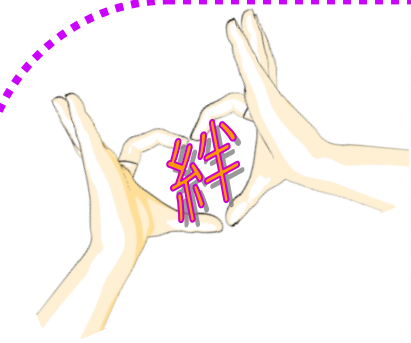
人権のつどい日

人形劇団 「ふきのとう」

10月の人権のつどい日は「人形劇団ふきのとう」さんによる人形劇の上演。2歳くらいから9歳くらいまでの約50名の子どもたちが集まってくれました。にぎやかだった室内も代表の近藤さんのお話で静かになり、いよいよ劇の始まり。かわいい人形たちのユーモラスな動きと会話に、つぶらな瞳がキラリ。食い入るように見つめる子どもたちの顔、顔、顔。



「喧嘩をしても、ごめんなさいの一言で、また仲良くなれる。」という内容の劇で、「ごめんなさい」の大切さが伝わってくれたと感じました。楽しい人形劇を見ながら、笑いと共に子どもたちの優しさも育つ1時間でした。



ありがとう



ごめんなさい

こだまでしょうか  
 「遊ぼう」っていうと  
 「遊ぼう」っていうと  
 「馬鹿」っていうと  
 「馬鹿」っていうと  
 「もう遊ばない」っていうと  
 「遊ばない」っていうと  
 そうして、あとで  
 さみしくなって、  
 「ごめんね」っていうと  
 「ごめんね」っていうと  
 こだまでしょうか、  
 いえ、誰でも。

これは、AC ジャパンで紹介された、「こだまでしょうか」という金子みすゞさんの詩です。相手が自分を好きになってくれるのも、嫌いになってしまうのも自分次第。自分の心が相手の心に反映し、コダマとして返ってくるのではないでしょう。



自分自身の人間関係を広げ、絆を深めていくためには、相手の想いを知る努力、相手を好きになろうとする努力が必要不可欠です。特別なことをする必要はありません。「おはよう」「こんにちは」「さようなら」という挨拶。そして、「ありがとう」「ごめんなさい」という言葉から始めていきましょう。優しい言葉があなたの心を開き、相手の心を開いてくれるはず。

## 全国隣保館職員四国ブロック研修会

10月8日、9日の2日間今治市において全国隣保館職員四国ブロック研修会が開催されました。四国各地から175名の参加の元、本研修会の統一テーマは「地域の絆を深め、心豊かな明日を拓こう」～新たな支援システムの創造に向けて～です。

一日目、「いのちの根っこにある人権」と題した大洲高等学校教諭の繁樹義一氏による人権コンサートでは、講師ご自身の持つ感性がそのまま聞き手の心にすっと入ってくると同時に、教育に対する熱を感じ、感性に訴える人権教育とはこのことなんだろうと実感しました。



二日目午前の分科会は、「支える隣保館、発信する隣保館」のテーマで開催された第3分科会に参加しました。徳島市立不動文化会館の発表では、隣保館で行っている各種事業もさることながら、隣保館とは別に徳島市から委託を受けて行う事業を民生委員や公民館その他の諸団体による実行委員会を立ち上げ、隣保館が事務局となり推進し、常日頃思う、「部落解放はまちづくりから」の実践報告の一つだと感じました。午後からは、ジャーナリストの馬場周一郎氏の「何が進み、何が残っている」～同和対策審議会答申50年の成果と課題～と題した記念講演でした。元西日本新聞記者で人権問題の執筆・講演活動を続けている方ですが、同和問題は到達点に近づき少なくとも前進しているという。これからは一人の百歩より100人の一歩に心がける啓発活動が重要となっているとのことでした。

なお、研修会場のロビーでは、フォトコンテストに応募した170点の写真が展示され、瀬戸会館から出展した一点が参加者の目に届いたのか、全国隣保館連絡協議会フォトコンテストに選考されたことが、後日愛隣連事務局から報告をいただきました。思いが届いて良かったです。



今回の研修は、参加者の研修に対する熱意も感じることが出来て、大きな成果があったのではないかと痛感しました。

## 第13回全国隣保館女性職員研修会

9月30日・10月1日の2日間大分県別府市で開催された第13回全国隣保館女性職員研修会に参加しました。記念講演として元パラリンピック日本代表の中西麻耶さんが「あきらめない心」と題して、小さいころからの夢、その夢にむかって頑張ってきたことや、突然の事故で足を失い家族みんなと一緒に乗り越えてきたことなどをお話してくださいました。「自分を愛してください。子どもたちを愛してください。その子が生まれた時の事を忘れないでください。愛情をもらって育った子は挫折も乗り越えられます。」「小さい頃からいっぱい失敗をしてください。失敗した時は皆で向き合ってください。経験がものをいいます。」「と、力強い講話でした。最後に『私は足を失った分、それ以上のものをもらったと思っています。』としめくくりました。私は当たり前の毎日、そして当たり前の自分がいかに大切に、ありがたいことか、今回の話から実感させてもらいました。

